

くまもとのタネと食を守る会 会報

熊本市北区植木町今藤 1140-1 Tel : 090-6426-3604 Fax : 096-273-1917 save.seedfoodkuma@gmail.com

2024年
1月



熊本市内の中学2年生 美咲ちゃんに描いていただきました！
P4のマンガ&イラストもお見逃しなく！

「変わるとイイナ」から 一歩踏み出す！学校給食特集号

ここ数年でオーガニック給食運動が全国的に広がり、2023年6月には全国各地の自治体、農協、生協、個人でつくる「オーガニック給食協議会」が発足し、同月に国レベルでも超党派の「オーガニック給食を全国に実現する議員連盟」が立ち上げられました。

くまたね学校給食プロジェクトでは、来年度の計画として、オーガニック給食を全国に実現する議員連盟で共同代表をされている坂本哲志氏に、今後の学校給食の在り方やオーガニック給食を実現するにはどうしたらよいかなど直接アドバイスを聞けるお話を予定していましたが、昨年未より農林水産大臣に就任され、熊本との行き来が難しくなることから、計画を断念せざるを得なくなりました。

12月6日オーガニック給食を全国に実現する議員連盟(以下、議連)主催で意見交換会が開催 議連からは超党派で50名近くの国会議員が出席。また農水

省、文科省の担当者も参加しました。

全国オーガニック給食協議会から代表の太田いすみ市長、副代表の秋山JA常陸組合長、大信パルシステム連合会理事長、下山全有協理理事長、理事の常陸大宮市長と事務局(いすみ市渡辺課長、鮫田班長)が参加、他関係団体としてオーガニック給食マップなどもオブザーバー参加。

オンラインで全国から協議会会員がオブザーバー参加で見守りました。

参加議員数の多さにこの取り組みへの関心の高さを感じました。

今年2024年には学校給食法の改定について国会審議が予定されているそうです。

法律に「学校給食のオーガニック化」や「無償化」の明記が実現したら、オーガニック給食の実現の大きな一歩に繋がります。

これからますます、市民の声が重要になっていきます。

オーガニック給食の動きについて



くまたね今後の予定

- 1月28日(日)
2024冬季種苗交換会(鹿児島開催)
- 2月24日(土)~25日(日)
第18回 GMOフリーゾーン運動
全国交流集会 in くまもと
- 3月2日(土)
水の調査報告会
「聞いてみよう~
中地先生の熊本の水の話
おうちの飲み水もってきて
はいよ~★硝酸態窒素の検査」



3名の体験談は
中面へ！

一人でもできた！（できる！）成功体験



1

本気で「一人も取り残さない」ために！

半田恵美

私の子どもは不登校で、去年の9月から別校区の小学校の敷地内に設けられている教育支援センターに通っています。

昨年までは週2、3日の利用でしたが、支援センターの先生のご尽力に加え、本人も慣れてきたこともあり、今年の9月から週5日通っています。こちらは、学校給食法の適用外の施設であるため、給食センターから直接配送してもらうことができません。敷地内の小学校に籍がある児童は、学校の方に一旦届けてもらったものを支援センターの先生が取りに行っていて、給食をいただくことができません。校区外小学校からの通学である私の子どもは対象外でした。そこで、「地域の全小中学校を対象とする教育支援センターなのに、個人々へのサービスに差があるのはおかしい」と、教育委員会に要望書を提出したところ、即検討いただけただけで、フル通学となっ

た今年9月から給食の提供を受けられるように調整していただきました。このことについては深く感謝しております。

学校教育に関わる人へ届きたい声

今後は、要望書にて提案したものの、現時点では見送りとなっている、同じ支援センターに通う中学生への給食の提供を呼びかけていけたらと考えています。要望書を教育委員会の窓口へ提出する際にも、対応された方に「通っている中学生の中には、コンビニ弁当を持って来る生徒もいる。それに、ご家族でも給食を食べさせたいという希望をお持ちの方もいる」ということをお伝えし、併せて食の大切さ、これから体を作っていく子どもたちと与える影響の大きさをお伝えしていたのですが、現場である支援センターの先生がおっしゃることは、「給食センターの場所が小学校と中学校で違うから」との理由が大きいのだとか。やはりここは簡潔な解決策として、「（学

2

食の問題を実感してから

中里千恵

私が食の問題を意識し始めたのは、2019年の冬でした。福岡にアメリカ Across America の代表であるゼン・ハニーカットさんのお話を聞いたのがきっかけです。

私たちの周りではもう日常になっている「アレルギー」について、遺伝子組み換え作物とセットで使われる除草剤グリホサートとの関連性を、そのお話の中で触れられたからです。

校とは別個に）必要とする児童・生徒の在籍する教育関連の機関に給食を提供する」ことを教育機関関連の条例などで確約していただき、配達の調整を融通していただけたら、すぐに実現できるかと考えます。子どもたちのために今の大人ができることをこれからも模索して、小さい声であっても届けていきたいです。

3

オーガニック給食に向け私が行なったこと

吉田由里

八代市のオーガニック給食に向けて、私が行動を起こすきっかけとなったのが、八代市で自然栽培でお米を作っておられる一人の女性との出会いと、一冊の『全国オーガニック給食フォーラム資料集』でした。



動、私にも協力させてください。」と手を挙げました。その時良かったのは、協力したいと手を挙げた人が他にもいたということ。教室

内がとてもし、前向きな空気に包まれたことを覚えています。

更にもっと良かったのが、当時農業塾を担当されていた市役所職員の方、大変協力的であったことです。それからことをあることに、食の安全に関わる情報をこまめに提供していただきましたが、その年の10月に開催されたのが「全国オーガニック給食フォーラム」でした。この資料集もすぐにお渡ししたので、この資料集が後に影響をもたらすことになりました。

その方は、数年前からお一人で役所に何度も足を運び、オーガニック給食に向けた活動を行っておられました。その方の授業の最後の方で、「オーガニック給食への活

たらすことになりました。翌月の11月には山田正彦先生をお招きしての、映画『食の安全を守る人々』の上映を開催。農業塾担当の市役所職員さんも参加し

幼い子ども（うち一人は乳アレルギー）をかかえ、子育てに家事に奮闘する私の妹の姿に、私自身、独身だからって無関心ではいけない。何か出来ることをやってみよう。というところからのスタートでしたが、行動すると出会いがある。その出会いとタイミングはとても大切だということに感じています。それから、一人で動いてみて感じたのは、実際に子育てをされているお母さん達の声や行動は、とても説得力があるということ。これからも出会いとタイミングを大切にしつつ、出来ることをこつこつ重ねていこうと思っています。

集』、部下に見せてもらい熟読しました。八代市もオーガニック給食に向け、検討していこうと思っています。」と。

てくださって、最初から最後まで熱心にメモを取っておられました。それからしばらくしての農業塾担当の職員さんの上司の方より声をかけられました。「『全国オーガニック給食フォーラム資料集』、部下に見せてもらい熟読しました。八代市もオーガニック給食に向け、検討していこうと思っています。」と。

当時、私は原因不明のアレルギー性鼻炎が悪化の一途をたどり、娘は様々なアレルギー物質が原因で喘息とアレルギー性皮膚炎を併発していましたので、ゼンさんのアドバイスされた「グリホサート」を避けるため、私達家族が食べているものでその可能性のあるものは全てメーカーや販売店に問い合わせ確認しました。すると、驚いたことに、ことごとくあらゆるものが汚染されていることに気付いたので。

グリホサートを避ける生活を続けていくと、私も娘も症状が劇的に良くなり、まもなく薬もいらなくなりました。

「こんなにも食べ物は身体に影響を与えているんだ！」と驚くと同時に、「これは大変な事態だ：なんとかこの汚染が蔓延している社会を変えなければ」と感じました。

はじめはグリーンコープで毎年カタクグと一緒に入ってくる、遺伝子組み換え食品に対して反対する署名を集めることからやってみました。家族、親戚、近所に住む方々、時にはカフェで隣の席やテーブルに座っていた方々などとお話することができ、周りの人へ体験を伝えることも地道に署名を集めていきました。自分でもびっくりしたのですが、最終的には200筆以上集めることができました。

しばらくして、若いお母さん達の集まりに参加して食の話をしに行こう、とのお誘いがありました。若いお母さん達はあまりピンとこなかったようなのですが、一緒に参加された地元の方々が、食の現状の深刻さを受けとめてくださり、その市議さんのはからいで、食育である学校給食に対して市民が意見を言える教育委員会との懇談の場を作ってくださいました。すると、これまたびっくりでしたが、部屋に入りきらないほど多くの市民の方々が来られたのでした。それからまもなくして、学校給食に使われる油が遺伝子組み換えでない油に切り替わりました。このことをきっかけに、有志の市民と市議2名で「菊池市の学校給食を考える会」を立ち上げ、今に至ります。

一人でもできること…それは、「お店・企業・学校・行政などに話したり問い合わせたりすること」、「賛同できる署名に協力すること」、「活動している人や団体を応援、できる協力をする」、「学習会などで現状をつかむこと」、「自分で理想の生き方に向けて、できることから実践すること」、「周りの人に話してみる」…など、意外と沢山あることに気付きました。

一人ひとりの積み重ね（対立ではなく対話）が、理想の社会を実現する一番大切なキーポイントではないかと思っています。